

2026 年度

2/2 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 放送の指示にしたがって、問題冊子に受験番号・氏名を記入します。
次に、解答用紙の指定された場所にQRコードシールをはり、受験番号・氏名を記入します。
3. 試験時間は 45 分です。
4. 問題は、1 ページから 17 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出てください。
5. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の 8 割以上は書いてください。ぬき出し問題では、指定された字数で答えてください。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

受 験 番 号	氏 名
B	

1 次の1～8の――線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 将来への明るいテンボウをえがいている。

2 怒りがリンカイ点に達し、爆発してしまった。

3 散歩をしていてエンドウの桜に目をうばわれた。

4 チョスイチから田んぼに水を引く。

5 ヨビの傘をかばんに入れる。

6 姉の絵の才能は類まれなものだ。

7 楽器はひいたらその都度拭くべきだ。

8 山の頂から景色をながめる。

② 中学一年生の共子さんは、地区のマラソン大会で一位をとった同じクラスの立子さんにインタビューをして、学級新聞にのせようと考えました。次の、A「インタビューの記録」とB「インタビューのメモ」を読み、後の問いに答えなさい。

A インタビューの記録

共子…こんにちは。今日は時間をとって来てありがとうございます。

立子…こちらこそ。話を聞してくれるの、とてもうれしいな。

共子…先週のマラソン大会、一位おめでとうございます。

立子…ありがとうございます！

共子…ゴールした時はどんなことを思いましたか？

立子…ええっと……そうね、「ああ、終わったあ」って感じだったかな。

共子…うれしきは？

立子…その後にきた感じ。とにかく、ここで一位をとることを目標にしてたから。

共子…なるほど。……マラソンは好きですか？

立子…はい！

共子…マラソンは楽しいですか？

立子…大変な時もあるけど、ゴールした時はうれしいし、……そうね、楽しいかな。

共子…それはいいですね。……あと、マラソンはいつから始めましたか？

立子…ええっと、小学校四年生のとき。

共子…そうなんですね。あ、どうして始めたんですか？

立子…二つ上の兄が、駅伝大会に出る練習をしてて、一緒に走ろうってさそってくれたんだ。

共子…お兄さんが。それはいいですね。

立子…うん。今でもよく一緒に走ってるよ。途中まで一緒なのに、結局おいてかれちゃうんだからね。

B インタビューのメモ

(聞くこと)

・マラソンを始めたきっかけ

・マラソンは楽しいか

・ゴールした時の気持ち

・マラソンとは何か → 目標

(答え)

・一位をとれてうれしい ← すごく
終わった

・大変なときもある 1 位が目標
マラソン楽しい

・小学校四年からはじめた おいていかれる
駅伝 兄にさそわれた

・県大会で入賞したい ← がんばれ

共子…楽しそうですね。……えっと。あ、では、最後に、立子さんにとって、マラソンとは何ですか？
立子…え、えっと、少し、質問があいまいなので、なんと答えたらいいか……。

共子…あ、ごめんなさい。では、今の目標を教えてください。

立子…来月の県大会で、入賞することを目標にしています！

共子…なるほど。応援しています。今日はありがとうございました。

立子…ありがとうございました！

1 Aについて、共子さんのインタビューのやり方として、よいところを次の中から二つを選び、記号で書きなさい。
A インタビューの始めと終わりに、時間をとってくれたことへの感謝を述べている。

イ「はい」か「いいえ」で答えられるような問いを基本としていて、相手が答えやすいインタビューになっている。

ウ マラソンの大変なところや始めたきっかけなどを聞くことで、相手の話を深めることができている。

エ 相手の返答に対して適度に相づちを打って、次の質問につなげることができている。

オ インタビューの終わりに最も重要な質問をすることで、相手の話を上手にまとめられている。

2 Aについて、共子さんのインタビューの改善案としてふさわしいものを次の中から二つを選び、記号で書きなさい。

ア 相手が緊張してしまうので丁寧なあいさつなどをぬきにして、気さくな口調を心がける方がよい。

イ「なぜ」、「どのように」などの言葉を用いて、相手が自分の言葉で語れるようにするとよい。

ウ 相手が質問に対してそれ以外のことを話し始めたときは、質問をくり返すなどして流れをもとにもどせるとよい。

エ 相手が質問に答えられない場合は、言葉を変えるなどしてこちらの求めるような答えを聞き出せるとよい。

オ マラソンという競技や相手の状況などをインタビューの前にあらかじめ調べておくと、話を深められてよい。

3 Bについて、インタビューのメモとしてよい点を次の中から一つを選び、記号で書きなさい。

ア いろいろな質問を考えている点

イ 質問が分類されている点

ウ あらかじめ答えを予想して書いている点

エ 短めの文で書かれている点

オ 自分の感想も書いている点

4 Bについて、インタビューのメモとして直したほうがよい点を次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分の言うこと（聞くこと）まで書いている点

イ 最初のあいさつなど、自分の言うことをすべて書いておかなかった点

ウ 質問と答えの順序が整理されていない点

エ 質問をあらかじめ決めている点

オ 相手の言葉をすべて書き取っていない点

5 共子さんが記事を書くために追加で質問するとしたら、どのような質問が必要だと考えられますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ゴールした時の喜びを、もう少し詳しく教えてください。

イ マラソンのどんところが特に楽しいと感じますか？

ウ お兄さんにさそわれた時はうれしく思いましたか？

エ これからもマラソンを続けたいですか？

オ 県大会に向けた抱負^{ほうふ}を一言でお願いします。

3 次の詩は、作者が戦争で亡くなった弟を思い出して書いたものです。この詩を読み、下の問いに答えなさい。

シーソー

やなせたかし

① シーソーというかなしいあそびがある

一方があがれば

一方がさがる

② 水平になることは一度もない

ぼくと弟は

シーソーのことを

ギツコンバツタンといていた

ギツコンバツタン

ぼくらはあそんだが

ちいさい時

弟は病気がち

学校の成績もわるかった

ぼくは

あくまで健康で

成績はとびきり上等だった

薬ばかりのんでいた弟は

いつもみんなになぐさめられ

お菓子と玩具に埋もれていた

1 線①「シーソーというかなしいあそびがある」とありますが、なぜ「かな

しい」のですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 体重の重い人が有利だから

イ 人に優劣をつけるものだから

ウ 相手への思いやりを欠くから

エ 大人は遊べないものだから

オ 子どもには危ない遊具だから

2 線②「水平になることは一度もない」とありますが、幼少期の作者と弟の

関係性をシーソーに例えるなどのようであったと考えられますか。ふさわしいも

のを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 作者のほうにばかりシーソーが傾いていた

イ 作者に傾いたあと、弟のほうにシーソーは傾いていた

ウ 弟のほうにばかりシーソーが傾いていた

エ 弟に傾いたあと、作者のほうにシーソーは傾いていた

オ シーソーは作者と弟の両方に、交互に傾いていた

3 線③「ぼくもぜひ肺病になりたくて」とありますが、ここから読み取れる

作者の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 弟と同じ苦しみを味わいたい

イ 学校に行かずに遊びたい

ウ 戦争に行きたくない

エ 皆から大切にされたい

オ 健康な身体でいたくない

③

ぼくもぜひ肺病になりたくて
わざと雨にびしょぬれになったりしたが
残念ながら平気だった
しかし

中学に入ってから

たちまち立場が逆転する

弟はすっかり頑丈がんじょうになり

柔道二段で優等生

ぼくは無段で劣等生れつとうせい

数学なんか0点だった

④
ギッコンバタン

ぼくたちは

一方があがれば

一方がさがり

いつも水平になれなかった

それでもぼくらは仲良しだった

シーソーをもういちどしたいと

おもっても

ああ 人生のギッコンバタン

ひとりぼっちではできないんだ

(『おとうとものがたり』フレーベル館による)

4

——線④「ギッコンバタン」とありますが、ここから読み取れる作者の感情としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア いかり

イにくしみ

ウ よろこび

エ おどろき

オ なげき

5

次の文の中で詩の内容と合っているものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 常に弟と比較ひかくされたことによって、自分に自信を持てなくなった作者の内面が強調されている。

イ 大切な弟の命を失うきっかけとなったシーソーを見て、改めてうらみをつのらせている。

ウ 作者と弟は仲が良かったがだんだんと関係性が変化し、競うべきライバルとなっていた。

エ 最後の部分で弟が亡くなったことが暗示されており、全体を通してさびしさが感じられる。

オ 遊具のシーソーを題材にすることで、若くして亡くなった弟の無邪気さや未熟さがよく表されている。

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

文筆家になって、12年。「名は体を表す」と言うけれど、文もその通りで、私の文は私の人生そのものなのだということに気づいた。今日明日どうこうできるのは、表面的なところだけで、蓄積された人生は隠しようなく文章から香る。文筆家になりたいからといって、文章の書き方の練習だけしていてもいけません。それよりも自分にしか書けない文を書くことⅡ自分だけの人生を歩むこと。遠回りなようで、これが一番の近道なんじゃないかな。言葉は音だから、あなただけの生き方があなただけの音をつくるのだ。

バンドをやめた後の一年半くらい、注¹屍のごとく引きこもっていた。最初のうちはイベントに出たり、展示会をしていたけど、それは前のエネルギーの残響で、長らく鳴っていたリズムがピタリと止んだ。風になったのだ。それと同時に三半規管の病や、脛^{すね}の皮膚炎、体のさまざまなところがガタピシしはじめた。冬眠するように私はひたすら眠った。眠って起きて、本や漫画を読んだり、今ではびっくりするけど好きなだけゲームをして、思考を停止させた。風が終わるまで、最小限の仕事だけを引き受け、部屋から窓の外を眺める日々を送った。それが、自分のこれまで歩いてきた道を振り返るタイミングになった。

ずっと内側から、材料として見ていた「音」を、はじめて外から眺めた。部屋で聞いた、階下を歩く人の足音や、郵便屋さんのバイクの音、雨だれの音。音にはどれも感情のようなものがあり、美しく、愛おしかった。それぞれの人生が、音に滲み出ているからなんだと思った。子どもの頃に戻ったようだった。世界は喧しい注²シンフォニーでできていた。しばらく、そのステージを眺めて過ごした。とても貴重な日々だった。止まってもいいのだ。

① が止まれと言うときは。人生の休符は、また必ずあなたに良いリズムをもたらしてくれるだろう。

やがて私は文章を書き始めた。創作の基盤はドラムフリーズ作りと同じだった。どういうものに心惹かれ、疑問を感じ、何を書いて何を書かないのか。書かないことが重要で、②引き算の美学があった。ドラムも叩かない部分にこそ鳴っているメッセーじがあった。口で歌えるフリーズは必ず叩けるようになったように、しゃべることを整頓できるようになっていくと、文章も少しずつ整うようになった。母や親友の前では注³怒涛のごとくしゃべることもあるけれど、文は体を表すのだとわかるようになった。

【A】

ドラムフレーズを口で歌えるからといってすぐ体が追いついたわけではない。私は運動はあまり得意でない。ドラムは運動神経もその上達に関係している。そういう意味では私はとても不利だった。^{注4}四肢がバラバラに動くのにも、人より時間がかかった。頭では自分で作ったフレーズが鳴っていても、それを実際に再現するのはA Iではなく生身だ。フレーズを何度も何日も体に染み込ませる。レコーディングの頃は、まだ完成度8割で、そのフレーズが完全に体に馴染むのはライブツアーをすべて終える頃だった。吹奏楽部の先生が言っていた「リハーサルのためのリハーサルではない」という言葉がよく理解できた。本番を踏むこと。あとながな状況に自分を追いつけること。たった一回の舞台での勝負を積み上げること。それが生きた体験となって自分の音を作っていた。**【B】**

「今は来る者拒まずで、なんでも引き受けてたくさん書くといい」と、作家になりたての頃に先輩からアドバイスを受けた。それのままに、本番を踏めるだけ踏めということだった。ドラムも文章も一日にしてならず。それはどの職業でも同じだろう。**【C】**突き詰めるからこそ険しく、険しいからこそ本当のおもしろいに達することができ。自分の気配が消えるまで鍛錬が積めたとき、自分のリズムが自然と滲み出るのだと、能楽師の有松遼一さんがおっしゃっていた。本当に、その通りで、多くのプロドラマーが「一番難しいのは8ビートだ」と言った。対して、多くの初心者は「8ビートなら叩ける」と言う。私も学生の頃はそう思っていた。**【D】**どちらも間違っていない。どこを見つめて生きているかという違いだけなのだから。8ビートを叩いたとき、その一音に人生が集約される。同じように、本を開いたとき、一文に人生が集約される。**【E】**

「練習」については、一日だけ長時間練習するよりも、一時間を毎日繰り返すほうが体に染み込む。ドラムにも文章にも農業にも言えること。じゃがいもを植えて、明日収穫できないように、人の成長も日を積み上げる重要性があるのだ。精神科医の先生とお話させてもらったとき、眠るということが、脳内を整理する上で大変重要なこととおっしゃっていた。その通りで、新しく作ったフレーズを練習して、ダメだ全然体が追いつかん、と思ったら、^④。そして翌日またスタジオに行くと、昨日できなかったことが不思議とできるようになっている。本当に不思議なんだけど、むやみに詰め込みで練習するより、眠ることのほうが大事だ。受験勉強がそうであったように、文章においても追い詰められたときは眠るに限る。昔は平気で徹夜していたけど、今は眠りながら考える。そして、早朝にペンを持つと、不思議と書くべきことが浮かび上がっている。毎日少しずつ積むことが鍛錬なのだと学んだ。

そして、突き詰めるとは、気づきを積み上げることではないか。いくらドラムの練習をしても、間違っただけで、たとえば8ビートがぶれたままで5時間叩き続けられれば失敗が型になってしまう。ドラムの練習をするときは2〜3時間と決めて、録音しては聴き直しながら、なるほど3拍目が微妙に後ろにいるんだな、などと確認し、修正しながら練習を重ねた。

言葉も同じで、消しゴムを使わない。二重線で消し、自分の思考回路の変遷を追えるようにしている。数日後、1日目の紙に戻って、そこから単語をピックアップしていることもある。「ジャンルは違えど、高い山をどこから登るかのようなこと」。徳島の僧侶の友人が言っていた。まさに、みんな何合目かで踏ん張って山登りを続けている。物事を突き詰めると、多少の風雨には脅かされない、しゃんとした背骨を与えてくれる。その背骨は、職業や住む場所が変わっても、ぶれることのない私のリズムの核になっている。

文章を書くのは決断の連続である。どんな題材にするのか、どの視点から見なのか、どんな言葉を選ぶのか、どこで終わらせるのか。書くには「決断の訓練」が必要だ。あなたの人生も、少なくとも大人になってからは、すべてが決断でできているだろう。たとえ誰かに誘われて流れ着いた今だとしても、それを受け入れる決断をしたのは自分だ。自信をもって決断し生きている人は、「いい音がする文章」を書けるようになる。

⑥ いい人生に必須なのは、いい失敗をたくさんすることだ。私は方向音痴で、道に迷ってはコンビニやガソリンスタンドで「ここってどこですか？」と海外ツーリストみたいなことを聞いていた。それが、今は道先案内人が常にいる。スマホができて以来、失敗できる機会が減ってしまった。充電さえしていればどこへでも案内してくれる。誰かに道を聞くことも聞かれることもなくなった。おいしい店まで紹介してくれる。迷って苦労してたどり着いた場所や道は忘れることがなかったが、最近の便利な旅は簡単に消えていった。サブライズがない。予定調和的で、安心して、可もなく不可もない。すでに予習した目的地に行つてシールをもらつてまた次を目指す、確認の旅のように思えた。便利によって搾取されているものは、便利以上に大きい。人間の軸の部分揺るがされている、というか、人間自体のリズムが大きく変わりつつある。時代の境目にいる戸惑いを私たちの世代はみんなもっているのではないか。

そんなこと言うても、失敗なんて誰もしたくないやん。そうですね、あえてするものでもないよね。それに失敗かどうかを決めるのは自分自身だ。「失敗をチャンスと思えるか!」みたいに^{注5}タフなメンタルは持ち合わせてないけど、転んで起き上がる時に何かに気づくことはある。痛いけど、めそめそしながらも失敗からしか学べないことばかりよ。成功すれば、そこで^{注6}ミツシヨンはおしまいだけど、失敗をしたとき、嫌^{いや}というほど自分と^{注7}対峙^{たいじ}させられる。もっとこうしてみようか。何がダメだったんやろ。別のやり方^{ため}試^{ため}そうか。そうして、何度も何度も体験し、その鍛錬は、靱^{しな}やかで強い心身を作る。

(高橋^{たかはし}久美子^{くみこ}『いい音がする文章——あなたの感性が爆発^{ばくはつ}する書き方』ダイヤモンド社による)

注1 屍のごとく 〓 死んだように

注2 シンフォニー 〓 交響曲^{きやうきやうきょく}

注3 怒涛 〓 勢いが強いこと

注4 四肢 〓 両手両足

注5 タフなメンタル 〓 強い精神力

注6 ミツシヨン 〓 役割、任務

注7 対峙 〓 向かい合う、直面する

① にあてはまることはを文章中から漢字一字で探し、書きぬきなさい。

2 ———線②「引き算の美学」とありますが、これを見つづけるきっかけになった経験はどのように例えられていますか。文章中から五字で書きぬきなさい。

3 この文章には次の一文がぬけています。この一文があてはまるのにふさわしいところを【A】、【E】から一つ選び、記号で書きぬきなさい。
自分が消えるまで基礎^{きそ}を習得し、それでも消せないものが自分の個性なのだと思う。

ア 今日(けふ)はひとまず帰(かへ)って眠(ね)る

ウ テンポを落として練習する

工 自分以外の楽器の音をよく聴く

才
病院で治療を受ける

高い山に登るように（Ⅰ 十字以内）ことで、（Ⅱ 二十五字以内）から

Ⅱ				Ⅰ	
					高い山に登るように
から					
	20			8	
				ことで、	

6 — 線⑥「いい人生に必須なのは、いい失敗をたくさんすることだ。」とありますが、「いい失敗」の例としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア みんなで遊びに行く計画を練っていたら、かえって仲が悪くなった。
イ 評判の悪い料理屋で食事をしたら、やはり料理がおいしくなかった。
ウ その場の勢いで気に入った服を購入したら、自分に似合わなかった。
エ 算数の予習をしていたら、だんだんと算数が好きではなくなった。
オ あまりに眠かったので早く寝たら、普段よりも長い時間寝てしまった。

7 次の文の中で、文章の内容と合っているものを二つ選び、記号で書きなさい。

ア 「私」は音楽活動を辞めてからもドラムのトレーニングを積極的にしていた。
イ 一見簡単に思えるドラムのパターンは、実はとても奥深いものだった。
ウ 睡眠は大切だが、場合によってそれは悪い方向に向かうこともある。
エ 世の中の便利さに慣れてしまった結果、人は失敗をすることが減った。
オ 失敗から学ぶことは多いが、成功体験からも多くのことを学ぶことができる。

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ヒトの「幸せ」は、他の動物や近縁種であるチンパンジーやゴリラと同じように、「幸せ」の原動力としての生存本能と生殖本能により突き動かされてきました。チンパンジーやゴリラの行動の大部分は、生存や生殖に結びつけて説明できます。たとえば①哺乳動物によく見られる「じゃれあい」や「スキンシップ」は、ヒトと同様に楽しそう、幸せそうに見えます。実際に楽しいのかもしれませんが、これらには相手に危害を加えないことをお互いに確認し、緊張感の緩和や信頼関係の構築にもつながり、結果的に死からの距離感を大きくする役割があります。

ヒトの身体的な「幸せ」、つまり身体的な死からの距離を最大限大きくする方法は、当たり前ですが、きちんと食べること、しっかり寝ること、スツキリ排泄すること、など健康的な生活を送ることです。当たり前すぎて見失いそうになりますが、災害などで、このどれかができなくなると途端に死の恐怖が襲ってきます。つまり死からの距離がぐっと近づき、「幸せ」感が激減するのです。しかし、②先進国に暮らす現在のヒトの多くは、必要最小限の衣・食・住では不十分でしょう。たとえば、食については美味しいもの、できればお酒などもあるとなお良いです。眠りについてはふかふかで清潔感あふれる寝心地の良いベッドで、夏はクーラー、冬は暖房をきかせた部屋での睡眠、排泄については清潔でプライバシーが守れるトイレ、しかも温水洗浄便座付き。このように快適でなければ満足しませんね。特に食については、食べられれば良いというレベルの食事では幸福感を持てないどころか、かえって不幸な気持ちになったりもします。そのため美味しいラーメン屋さんに長時間でも並ぶわけです。つまり、「より」美味しいものの、「より」いい眠り、など「より」良いものの、英語で言うところの「ベター (better)」を求めます。③そこに幸せがあるのです。

生物学的にこのベター志向を整理すると、こうなります。まず、ベター志向は④です。ヒトはいつも何か創造してものを作り出す動物です。これは遺伝子に刻まれています。食べることは快樂です。これは他の動物も一緒です。栄養価の高いものはより美味しく感じ、快樂も高まります。快樂は報酬系と呼ばれる脳の神経伝達物質の分泌を増やし、また食べたいというモチベーションを掻き立てます。つまり快樂は、生存本能（生きようとすること）を実行するための仕組み（サポーター）なのです。

しかし、死からの距離を保つという意味では、「幸せ」の本質は食べて栄養を得ることです。お腹がいっぱいになれば何を食べても一緒です。ですが、いろんなものを作り出せる知性と創造性を手に入れたヒトは、当然ながら褒美である快樂重視に走ってしまいました。快樂は中毒性があります。中毒は理性を狂わせ、死からの距離を逆に縮めます。言ってみればヒトは快樂中毒となり、どんどん自らハードルを上げて、⑤かえって「幸せ」を減らしてしまっているのです。ヒトの創造性というのは、飽きっぽい

ことの裏返してもあり、現状にすぐに物足りなくなるのです。

食べ物に加えて技術面（テクノロジ）のベター志向も同様です。テクノロジを持つのはヒトの特徴です。ちなみに、チンパンジーも多少道具を使います。アリを食べるときに細い枝を巣穴に突っ込んで、「釣り」のようにして食べます。突っ込みやすいように枝の葉を落したり、噛んで先を尖らせたりします。また、硬い木の実を石で叩いて割ったりもします。

さてヒトはというと、最初の「道具」は石を削って先を尖らせたものです。そこにとどまらず、叩きやすいように形を加工したり、木の取っ手をつけて遠心力を高めたりいろいろと工夫を加えバージョンをアップしました。新しい技術は集団で共有して、誰かが何か「より」便利なもの（ベターなもの）を作ると、それをみんなで真似します。新しいテクノロジはあつという間に集団内に広がり、すぐにそれを超えるものがまた集団の中の誰かによって作られていきます。便利な道具を作り出すテクノロジは、安定した食料確保につながり、死との距離感を大きくする「幸せ」な行為なのです。

まとめると、ヒトの「幸せ」＝「死からの距離が保てている状態」も、生存本能に根ざしています。そして並外れた知性と創造性によって、より快樂が得られるもの、便利なもの（ベターなもの）を次々に作り出していきました。よく言えば「成長志向」が強い生きものです。ただ問題は、残念なことに、作り出した「便利なもの」の使い方は遺伝子に刻まれていないことです。その結果、集団快樂中毒状態に陥るか、あるいは使い方を誤ってかえって自分たちの首を絞めてしまうのです。

ある目的を持って作ろうと思った本人以外は、大体的場合勝手に使い方を変えてしまいます。もちろんいいこともあります。時には大惨事を引き起こしてしまうこともあります。アルフレッド・ノーベルは土木工事のために1860年代にダイナマイトを発明しました。それがその後、戦争で殺戮兵器として使用されているのはご存じの通りです。ヒトはテクノロジの使い方を知らないというか、勝手にアレンジしてしまうのです。

（小林武彦『なぜヒトだけが幸せになれないのか』講談社による）

※ 設問の都合により、文章中の図は省略してあります。

注1 緩和 Ⅱ ゆるむこと

注2 モチベーション Ⅱ 何かをやると思う気持ち

注3 遠心力 Ⅱ 物が回転しているときに、中心から外側へ飛ばされそうになる力

1 — 線①「哺乳動物によく見られる『じゃれあい』や『スキンシップ』とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア チンパンジーやゴリラが「幸せ」を原動力としていることの証明となる。

イ ヒトが幸せを実感するための行動である。

ウ チンパンジーやゴリラが生きるためには大切な行動である。

エ 動物と人間の信頼関係を構築し、ともに生きていくために必要な行動である。

オ チンパンジーやゴリラもヒトと同じように、楽しむということを大切にしている。

2 — 線②「先進国に暮らす現在のヒトの多くは、必要最小限の衣・食・住では不十分でしょう」とありますが、なぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 先進国で暮らすと衣・食・住の必要性が理解できなくなるから

イ 先進国に暮らすヒトの多くが本能を忘れてしまうから

ウ 先進国での暮らしは安定することがないから

エ 先進国での暮らしは快適とは言えないから

オ 先進国に暮らすヒトは快楽を求めるようになるから

3 — 線③「そこ」とありますが、その具体例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 公園で遊んでいるとき、のどの渴きを覚えて水道の水を飲むこと

イ 仲間とともに屋外でバーベキューをして肉を食べること

ウ とても暑い夏に通気性のよい服を着ること

エ 誕生日のお祝いに好きなものを食べに行くこと

オ 冬の寒い夜に高級な羽毛布団(うもっふとん)をかけて寝ること

4 — ④にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 理想 イ 能力 ウ 技術 エ 本能 オ 余分

5 — 線⑤ 「かえって『幸せ』を減らしてしまっている」とありますが、なぜですか。その理由を次の（ ）にあてはまるかたちにして、Aを十五字以内、Bを二十五字以内で説明しなさい。

快楽は（ A 十五字以内 ）けれど、（ B 二十五字以内 ）から

（下書き用）

B			A		
					快楽は
から			けれど、		
	20				
				12	

6 — 線⑥ 「それをみんなで真似します」とありますが、なぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 集団内での技術や能力を平均化することで、集団内の不平等や争いを少しでも減らし平和に暮らすため
 イ 集団内で技術を向上させることで、集団の力をより強いものとし、集団が生存する可能性を高めるため
 ウ 集団内での知的好奇心ちてきこうしんを高めることで、集団の特質と結束を確かなものとし、他の集団との競争に勝つため
 エ 技術や知識を共有することが、集団内のヒト同士の信頼関係や友好関係をより深めるために必要であるため
 オ 技術や知識を共有することで、ヒトの飽きっぽい性質を満足させ、生きることの楽しさを感じさせるため

7 —線⑦『便利なもの』の使い方は遺伝子に刻まれていない」とありますが、どういことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 生き残るために「便利なもの」を生み出しても、誰も教えることなくその必要性や用途がそのまま伝わることは不可能に近いということ
イ 並外れた知性と創造性により「便利なもの」を生み出しても、ヒトの固有性があるためにそれを他者に伝えることは難しいということ
ウ 集団の中から生み出された「便利なもの」は他の集団へ伝わることはなく、その集団自体がなくなると同時に消えてしまうということ
エ ヒトは快楽を求め続けてしまうので、「便利なもの」として生み出されたものについても、その健全さを保つことは難しいということ
オ 「便利なもの」が生み出されることで集団の生活は安定するが、同時に「成長志向」がうすまり、本来の有効性もなくなるといこと

8 次の会話を読み、文章の内容と合っているものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 共子…ヒトはそれぞれ感じ方や考え方がうから、「幸せ」が何かを一つに決められないわね。

イ 立子…ただ眠りたいだけ眠っているだけで幸せだなあ、と感じる時もあるしね。

ウ 友子…ヒトが「幸せ」を感じられないのは、どうしても死をさけられないからだと思うわ。

エ 立子…いろいろなものが発明されて生活がもっと便利になれば、みんな「幸せ」になると思うな。

オ 共子…理性があるから、技術の向上の結果失敗したとしても、反省して「幸せ」につながるのよね。

(問題はこれで終わりです)

